

森の語り場 第2回神戸森林フォーラム  
元気な里山を次世代に渡すには

日時:2025年10月31日(金)14時00分~16時15分

場所:KIITO 1階ホール

参加者:現地 88名

オンライン 112名

主催:神戸市建設局森林・防災部森林課

○ 当日の内容

1:黒田副市長よりあいさつ・趣旨説明

2:基調講演

テーマ「里山広葉樹の家具材としての可能性」

加藤 洋 カリモク家具株式会社 取締役副社長

3:話題提供

テーマ「神戸市の森林の現状と可能性」

栃本 大介 神戸市建設局森林・防災部森林課 森林官

4:パネルディスカッション

テーマ「神戸の里山の木をどう使うか」

【パネラー】

加藤 洋 カリモク家具株式会社 取締役副社長

和田 賢治 合同会社ツバキラボ 代表

東 若菜 神戸大学大学院農学研究科 准教授

野口 僚 合同会社六甲山クリエイティブラボ

【進行】

黒田 慶子 神戸市副市長

パネルディスカッションでは、木を調査する側、木材を使う側など、それぞれの立場から木への関わり方や木の伐採量・流通の仕組みについて、意見が交わされました。(次頁参照)。

## ○パネルディスカッション要旨

- ・里山の木をなぜ使うのかを十分に伝えられていない。一方で、木材が流通していないことも課題。
- ・伐ったら植樹が必要と思っている方がいる。切り株から芽がでてくるということが浸透していないと感じる。広葉樹は「伐っても良い」ということを広く伝える必要がある。
- ・流通促進にはストーリーが必要。また、一般家庭やプライベートな用途へのルートを開拓しなければ、里山の材が消費できない。そのため、流通をもっと規模を大きくしていかなければならない。
- ・家具は良いもの、長く使えるもの、愛着を持てる物やサステナブルなものが求められる傾向がある。
- ・大学生をはじめ、若い方々は、真剣に環境のことを考え、コミットしたいと考えている。自発的な感動の機会を増やしてあげることが重要。
- ・小さいお子さんには、教えるのではなくて、森へ連れていき、さりげなく体験させることが大事。



黒田副市長のあいさつ・趣旨説明



パネルディスカッションの様子

以上